

景況レポート

(8月分・情報連絡員 80名)

原油高、円高によりD I 値が後退

【概況】8月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが5.0%(前月調11.3%)、「悪化」が41.3%(同33.8%)で、業界全体のDI値は-36.3となり、前月調査と比較して13.8ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-28.1で前月調査(-9.4)に比べ18.7ポイント下回った。また、非製造業全体は-41.7で前月調査(-31.3)と比較して10.4ポイント下回った。

県内では商業施設、介護施設の建設が活発になっており、住宅着工戸数も6月、7月と前年を上回ったが、景況の改善には至らなかった。

原油高による原材料、資材の値上がりが収益を圧迫しており、また、長引く円高により生産活動の海外移転が促進する可能性も強まっている。(回答数:80名 回答率:100%)

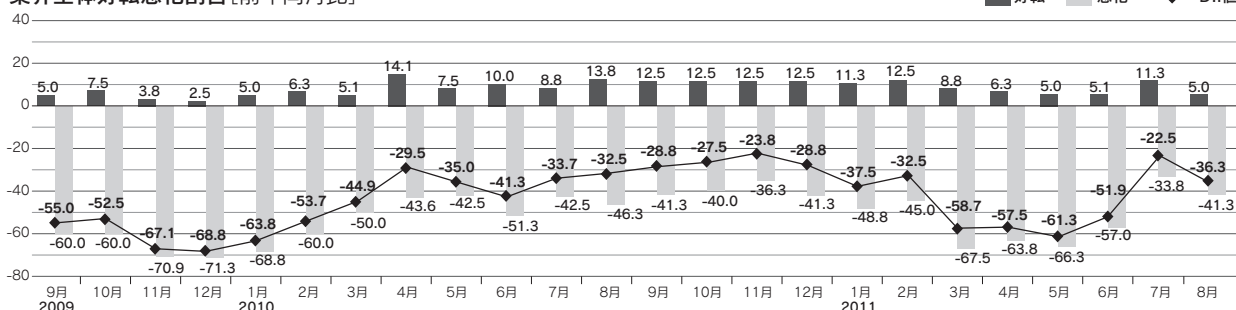
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☔
非製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☁

【凡例】

 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

菓子製造	8月は竿灯、お盆の帰省など人の動きが多い月であり、また、今年は北東北インターハイの開催地となったことから、お土産等の売上が好調だった。
清酒製造	7月の清酒出荷量は、前年同月比98.8%であった。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比111.0%、純米酒が115.7%、本醸造酒が87.5%、レギュラー酒が97.1%となっている。
繊維工業	【ニット】計画停電の実施を見込んだスーパークールビズのキャンペーンが追い風になり、8月単月では昨年より受注量が増加した。円高の長期化により、一旦国内に戻っていた仕事を再び国外に持ち出そうとする動きが出てきている。
一般製材	原木は、国有林材が出回ったことで価格は安定しているが、原木市場や県森連の各共販所は出材量が少なく、低質材の割合も多くなっている。製品市況は、国の優良住宅取得支援制度「フラット35S」制度が9月で終了することから、駆け込み需要に追われているプレカット工場もある。
鉄鋼	公共建物の耐震工事に加え、倉庫・工場の新築、特別養護老人ホーム等民間工事物件の需要も増加しており、9月、10月は工場稼働率100%以上の受注を確保しているが、受注単価は採算割れが続いている状況で、先行きの受注不安もある。
自動車販売	8月の新車販売台数は、登録自動車1,787台(前年同月比100.8%)、軽自動車1,435台(同91.9%)で、合計3,222台(同96.6%)であった。
石油販売	ガソリン1ℓ当たり147円で前月比1円引き上げ、軽油1ℓ当たり128円で変わらず、配達灯油は18ℓで1,689円と前月比17円の引き下げとなった。マージンの悪化と減販により苦戦した。
商店街	【秋田市】・家電販売は前月までの3割減となり通常に戻った。他の業種も横ばいか、やや減少であった。 ・震災による自粛ムードは和らいた感はあるが、一般消費は依然買い控え感が強く、消費単価も低い。お盆過ぎは全般的に売上が急激に落ち込んだ。
管工事	・資材がジワジワと値上がりの方向に進んでおり、今後の不安材料となっている。 ・発注量は少しずつ増えているが、土木業者が参入している為、管工事業者が仕事を得にくい状態が続いている。
トラック運送	高速無料の恩恵を受けられた会社は収益が好転したが、他は軽油価格の高止まりで苦しんでいる。今後、荷動きが全体的に良くなるかどうかは不透明である。